

会 派 活 動 報 告 書

平成31年4月30日

岡谷市議会議長

武井 富美男 殿

会 派 名 新 風

代表者 小松 壮

平成30年度における岡谷市議会 会派「新風」の活動について、下記のとおり報告いたします。

活 動 項 目	活 動 内 容 及 び 活 動 の 実 績 と 効 果
<p style="text-align: center;">調査研究</p>	<p>○活動内容</p> <p>▽先進地視察</p> <p>実施日時 平成30年10月9日（火）～11日（木）の3日間</p> <p>[視察先・テーマ]</p> <p>(1) 大和市（神奈川県）大和市文化創造拠点シリウスの運営について</p> <p>この施設は2016年の開館以来、累計来館者数が600万人を超え、市民のみならず近隣市町村からも多くの方が訪れている。複合施設として図書館を中心に様々な施設（芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内子ども広場）と融合したことによる付加価値を創出したことが人気の背景にある。</p> <p>(2) 小山町（静岡県）国土強靱化計画について</p> <p>あらゆる自然災害等が発生しても機能不全に陥らず、いつまでも元気であり続ける「強靱な地域」をつくりあげるため、地震対策等をはじめ国や県の支援策を最大限に活用し施策を実施するとともに、防災・減災と地域成長を両立させる地域づくりを、町民、事業者、各種団体等による主体的な取り組みや協働を促している。町民の「安全・安心」を最優先として「富士山頂のあるまち」「金太郎誕生の地」にふさわしい元気で、強く、安全な地域社会の実現を基本理念として小山町国土強靱化計画を策定して、着実に推進し、2年連続で強靱化大賞の金賞を受賞している。</p> <div data-bbox="963 1491 1417 1928" style="text-align: center;"> </div> <p style="text-align: right;">出典:小山町国土強靱化地域計画 H28年5月</p>

(3) 松田町（神奈川県）先進的空き家対策について

空き家発生予防事業として、予防啓発のためのリーフレット作成、終活講演会兼空き家予防講演会開催、個別相談と相談体制構築、賃貸住宅制度等説明会の開催、住宅確保要配慮者支援のための町のホームページ改良、空き家バンク制度の導入、民間賃貸住宅家賃補助事業などを推進している。

(4) 東伊豆町（静岡県）地域おこし協力隊について

地域外の人材を積極的に誘致し、地域の活性化を呼び起こすとともに、その定住、定着を図り地域力の維持・強化に資するため、H21年3月の総務事務次官通知に基づき、東伊豆町地域おこし協力隊設置要綱をH28年3月に制定し、隊員の委嘱期間は原則1年、最長で3年まで延長できるなど身分の保証、報酬、活動時間、休日等の詳細を定めた。

現在5名（1名は6月に退任）の隊員が活動中。空き家対策・若者交流、1名は観光振興を担当しており、現在活動中の2名を含めて今迄に6名の活動実績がある。

○活動の実績と効果

[視察で学んだこと]

(1) 大和市 文化創造拠点シリウスの運営について

- ・文化創造拠点「シリウス」は複合施設として運営している中で、合理的で市内、市外多くの人々が訪れている、行政境を感じさせないことから複合施設として成功している。
- ・大和市の基本政策の健康都市を目指すきっかけとして、文化創造拠点「シリウス」に気軽に誰でもお一人様（高齢者）でも足を運んでいただく、家から出るきっかけづくりと、居場所づくりに大きな影響を与えている。
- ・複合施設のコンセプトは図書館メインではなく、市民が主役、人が主役ということで、誰でも訪れたいくなる複合施設になっている。
- ・岡谷市でも公共施設の集約化をしていく中で、「シリウス」のような人づくり、健康づくりをコンセプトにした施設が必要だと学んだ。



(2) 小山町 国土強靱化計画について

- ・国土強靱化地域計画の名称を活用しなくてもよいし、副題を付すことも可能である。岡谷市独自の名称で構わない。(内閣官房国土強靱化推進室発行の策定ガイドライン第5版に記載)
- ・平成22年9月8日の台風9号による激甚災害指定を受けた程の災害で死傷者はゼロであったことは「小山町地域防災計画」を基軸とするまちの地域防災の取り組み(仕組み)がしっかりしていたことによる。
- ・策定済みは全国で80市町村と非常に少ないが、総合計画や地域防災計画との位置付けを明確にして、安全安心なまちづくりのアクションプランとして推進する必要性がある。



(3) 松田町(神奈川県) 先進的空き家対策について


松田町の担当者は岡谷市の空き家対策を参考にしている部分がある。取り組みの斬新な部分というよりも全庁あげて推進していることや、空き家発生予防に力を入れている点、また国をうまく活用している点は参考になった。

課題として、高齢化による空き家発生予防の意識付け(終活との結び付け)の重要性、賃貸物件の空き家対策として、不動産事業者との連携の必要性がわかった。



(4) 東伊豆町の地域おこし協力隊について

- ・協力隊員の活動が住民に評価され、生き生きと活動していることが分かった。岡谷市の協力隊員もこのようになってほしい。
- ・生活支援体制(生活していくための行政としてのバックアップ)、課題発生時の支援体制の必要性がわかった。
- ・地域おこし協力隊員活動の市民への積極的な情報公開が必要である。
- ・3年後に起業してもらうための体制の明確化が必要である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・岡谷市が中心になって諏訪6市町村の協力隊員との交流、意見交換の場も必要だと感じた。 
<p style="text-align: center;">研 修</p>	<p>○活動内容（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 4月20日（金） <p><u>マツくい虫被害と対策について</u></p> <p>塩尻市県林業総合センターにて、宮所長、柳澤研究員より説明を受ける。</p> <p>○活動の実績と効果（1）</p> <p>被害の現状、松林の枯死の因果関係、対策（駆除方法＝樹幹注入、伐倒処理、予防散布など）を理解でき、岡谷市が取るべき対応として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パトロールの強化 ⇒ 伐倒と薫じょう処理 ・監視員への教育（早期発見のため） ・守るべき松林の設定と、防除帯の設置 <p>現在5Km/年で南下している松くい虫対策は喫緊の課題だと痛感した。</p> <p>○活動内容（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月8日（火） <p><u>岡谷市の教育について</u></p> <p>市役所にて、竹内主任指導主事、花岡統括支援指導主事より説明を受ける。</p> <p>○活動の実績と効果（2）</p> <p>岡谷市のめざす教育、幼保小中高大がそれぞれ「内容」を重視した学習指導要領を持っていたが、新学習指導要領は根本的に同じものにし、①学びに向かう力（学ぼうとする力）②知識、技能 ③思考力、判断力、表現力を3本柱とした「生き抜く力（コンピテンシー＝資質能力）」をつけるとして、岡谷市教育大綱に反映している。</p> <p>○活動内容（3）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5月10日（木） <p><u>マツくい虫被害と防止方法、対処方法について</u></p> <p>南箕輪村信大農学部にて、小林准教授より説明を受ける。</p> <p>○活動の実績と効果（3）</p> <p>被害の現状は、天竜川沿いに、上昇し現在は箕輪町まで被害が発生している諏訪6市町村と辰野町及び佐久、上田地域は被害がない。対策としては、</p>

薬剤の樹幹注入は一番効果がある（効果は6～7年）があるが薬剤が高価（1本当たり1～2万円）、発見次第伐倒処理し、チップ化が現実的対処（飯田市に工場あり）である。

但し、山林全体にわたるパトロールは現実的に不可能であり、岡谷市が取るべき対応として、パトロールの強化、伐倒、早期発見への監視員への教育と体制強化（早期発見のため）が必要であり、合わせて発生地域ごとに対応がまちまちであり、県としての統括管理の必要性や薬剤の空中散布の是非を検討する必要性を痛感した。

○活動内容（4）

・ 8月23日（木）

新たな森林管理、ICTを活用した林業のスマート化について

「飯山市文化交流館なちゅら」にて、「新たな森林管理システム及び森林環境譲与税（仮称）の創設に伴い市町村の果たす役割について」、「地域集約化とICTを活用した林業のスマート化」の研修（講演）に参加（岡谷市森林・林業・林産業活性化促進議員連盟事業）

○活動の実績と効果（4）

我が国の森林面積は国土面積の3分の2にあたる約2,500万ha（人工林は約1,000万ha）であり、森林資源は人工林を中心に蓄積は毎年約1億m³増加。「伐って、使って、植える」といった森林資源を循環利用していく新たな時代に突入している。8割の市町村が、管内の人工林（民有林の手入れ不足状態である。また、所有者不明森林や境界が不明確な状態では、森林の経営管理や路網整備などに支障が出て、不在村化、高齢化が進む中、早急な対応が必要となっている。そこで、森林環境税を活用して林業経営に適した森林は意欲と能力のある林業経営者に、林業経営に適さない森林は市町村が自ら管理する新たな森林管理システムを導入した。市町村の体制支援として、「地域林政アドバイザー」の活用などの措置も考えている。

ICTを活用したスマート森林管理では、林値情報のデジタル化、レーザ解析による情報の高精度化により、情報利活用の知識・技術の平準化、調査、計画業務の効率化や近隣事業体との協同直送出荷体制の構築、ICT機器（スマホ）を活用した生産情報管理木材集出荷情報共有システムの構築が進んでいることが理解できた。

○活動内容（5）

・ 11月5日（月）～6日（火）の2日間

滋賀県大津市「全国市町村国際文化研修所（国際文化アカデミー）」にて開催された市町村議会議員研修に参加。

研修内容

（1）地方自治の現状と議会改革の動向

	<p>(2) 「議会改革度調査」から見る地方議会 (3) 議会改革を考える「先進事例に学ぶ住民参加・情報公開」 (4) 住民参加・情報公開を進める取り組み (5) 各議会における今後の議会改革推進の検討</p> <p>＊講師 北川正恭（早大名誉教授）、中村 健（早大マニフェスト研究所事務局長）、鶴川和彦（栗山町議会議長）、目黒正三郎（会津若松市議会議長）</p> <p>○活動の実績と効果（５）</p> <p>「議会改革とは何か」をあらためて学ぶことができた。先進議会（栗山町議会、会津若松市議会など）では議会あるいは議員に市民が何を求めているかを知るための議会モニターや政策サポーター制度等の方法が明確に示されている。</p> <p>本研修では議会として議決機能の重要性を再認識できたこと、その中で、議会として何をしなければならないか、何を求められているのかを学んだ。そして、「議会が信用されなければ、地方創生はあり得ない」と言われ、議員、会派ではなく議会として何を目指していくのか、目的を共有しなければならないということ、様々な考えや意見を持つ議員が合意形成して、行政へチーム議会として対応する重要性を認識できた。</p>
<p>要請・陳情</p>	<p>○活動内容</p> <p>平成31年度予算編成への要望書を、予算編成前のH30年10月1日に市側に提出した。</p> <p>[要望事項の概要]</p> <p>1 活力と魅力あるまちづくりの推進</p> <p>(1) 工業振興の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存企業の流出防止と企業誘致の推進・工業用地確保 ○創業支援の充実 ○新成長分野への展開支援 ○中小企業の事業活動に対する金融施策の継続 ○求人・求職・雇用支援と企業内部の能力開発支援 ○AI、IoT活用支援の継続 ○人手不足、事業承継に向けた支援（事業者の高齢化） <p>(2) 商業振興の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中心市街地を含む市内商店の活性化と自立支援 ○空き店舗に対する官民連携による対策の実施 <p>(3) 観光振興の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近代化産業遺産群の有効活用促進 ○「信州シルクロード連携協議会」の更なる進展 ○インバウンドへの取り組み強化

- (4) 農業、林業、水産業振興の充実
 - 耕作放棄地の有効利用
 - 森林整備の推進
 - 諏訪湖や天竜川での内水面漁業の維持
 - 松くい虫対策の更なる強化
 - 県の森林づくり県民税と国の森林環境税（仮称）の有効活用
 - (5) 芸術・文化の振興
 - 近代化産業遺産群、旧市庁舎の保存及び有効活用促進
 - 岡谷蚕糸博物館・イルフ童画館・市立岡谷美術考古館の利用促進
 - 学芸員の活動推進と出前講座の充実
 - 日本遺産の有効活用
- 2 健康・福祉施策の充実
- (1) 健康づくり事業の積極的な推進による健康寿命延伸
 - 市民参加への啓蒙・地域ぐるみ健康づくり支援体制の強化
 - 健康づくり・福祉施策の充実
 - (2) 岡谷市民病院の医師・看護師等の人材確保強化による医療体制の充実
 - (3) 地域包括ケアシステムの充実
 - (4) 介護予防の取り組みと地域課題への対応と支援強化
 - 各区共通課題への支援（区長との協働）
 - 高齢者の働く場の確保、地域における活躍の場の創出
 - (5) 障がい者（児）支援の充実
 - 様々な分野での官民協働による障がい者支援の充実
 - 官民一体での障がい者雇用の強化
 - 障がい者（児）の生涯にわたる支援の充実
- 3 安全・安心な生活、自然環境の保全
- (1) 危機管理体制と防災・減災対策の推進による地域防災力の強化
 - 県と連携した広域受援計画、治山、治水基盤整備計画の推進
 - 諏訪圏域（諏訪ゾーン）の連携強化
 - 消防団の組織維持と災害対応に対する装備の強化
 - 塚間川など溢水河川の未改修区間の計画的な工事の推進
 - 除雪及び路面凍結への迅速な対応
 - 子ども達の安全確保
 - ・通学路の安全確保
 - ・災害に備えた防災ヘルメット配布の検討
 - ・登下校の安全確保のための小学生のシルキーバス利用拡充検討
 - ・安心の家の充実、確保
 - ・横断中の事故の撲滅

- (2) 生活道路の整備促進
 - 土木陳情に対する早期対応
 - 危険個所の早期情報収集への対応
- (3) 水道、下水道事業の維持・強化
 - 管路の耐震化への早期対応
- (4) 諏訪湖浄化や森林の保全、河川整備の推進
- (5) 再生可能エネルギーの利用促進と地球温暖化防止対策の推進
- (6) 高齢者の交通事故対策強化
- (7) Jアラート発令時の対応と体制の強化

4 学校教育・生涯学習の推進

- (1) 学校教育の充実強化
 - 自然や文化を生かした特色ある教育プログラムの充実
 - 心の教育の充実
 - いじめ・不登校対策の充実強化
 - 一人ひとりの学力向上施策の充実強化
- (2) 学校教育環境の充実
 - 保育園、小中学校の計画的なエアコン設置
 - 小中学校の計画的なトイレ改修
- (3) 発達障がい児の支援及び特別支援教育の充実
 - 発達が気になる子供への支援に対する財源確保（教育振興基金の設立）
 - 特別支援教育支援員の人材の確保、適正な配置と研修機会の充実
- (3) 生涯学習の推進強化
 - 生涯学習環境の整備（公民館等へのエアコン設置）

5 スポーツの振興

- (1) 市民スポーツ活動への積極的な支援とスポーツ施設の整備充実
 - スポーツ推進計画に基づくスポーツ施策の充実
 - 岡谷市民総合体育館へのエアコン設置
- (2) 障がい者（児）スポーツ等への支援強化
 - 障がい者（児）のスポーツ機会の充実や運動への支援強化
 - 行事参加時の障がい者（児）へのサポート体制強化

6 公共施設等総合管理計画の推進

- (1) 駅周辺整備のさらなる検証
 - 駅前再開発とイルフプラザの有効活用
- (2) 保育園整備中期計画の推進

	<p>7 広域行政の推進</p> <p>(1) 広域連携の促進と広域事業の拡充の検討</p> <p>(2) 市町村合併への民意の把握</p> <p>(3) 公立諏訪東京理科大学の適正な運営 ○公立諏訪東京理科大学と6市町村行政並びに県立高校との連携強化</p> <p>8 国・県事業に対する推進要請</p> <p>(1) 県道下諏訪辰野線ほか都市計画道路の整備促進・連携強化</p> <p>(2) 諏訪湖創生ビジョンの計画的推進</p> <p>(3) 国道20号バイパスの早期完成</p> <p>(4) JR中央東線複線化・高速化の推進</p> <p>(5) 市内河川(天竜川・横河川)と湖周の支障木等除去促進</p> <p>(6) 岡谷技術専門学校の存続と施設充実</p> <p>(7) 長野県工業技術センターの更なる活用</p>
<p>その他</p>	<p>○活動内容</p> <p>意見書(案)の提出</p> <p>(1) 県道下諏訪辰野線拡幅改良を求める意見書(案) (平成30年9月定例会にて原案可決 県へ提出)</p> <p>(2) 公立保育園・小中学校等公共施設へのエアコン設置に対する国の財政支援を求める意見書(案) (平成30年9月定例会にて原案可決 国の関係行政庁等へ提出)</p>

***活動実績**

- ・会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。
- ・議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。